準備

太綱を伸ばして置き全兒童・生徒を紅白の二組に分つ。

方法

各組とも二列となりて綱の兩側に整列し、「用意」で各自綱を持ちて身構へする。「始め」の合圖で互に力を合せて引き合ひ、綱の中央を一定の位置（約二米位の所へ線を引いて置く）まで引いた方を勝とする。

注意

イ、調子を合せることに努むるやう。

ロ、綱の大小兒童生徒數に應ずるやう。

ハ、止めの合圖があつた後は直ちに中止せしむ引くにまかせて置く時は危險である。

ニ、一回毎に位置を交代させる。

ホ、各組から調子をとる者及び應援する者等を二三人宛出してもよい。引き方にも種々の形式があるから學年に應じて指導するやう。

九、帽子取

用具

帽子紅白各自童・生徒數だけ。

準備

兒童・生徒を紅白二組に分けて帽子を被らせ、十二三米を隔てゞ對陣させる。

方法

「始め」の合圖で互に好敵手を求めて渡り合ひ、帽子を奪ひ取るのである。而して必ず一人對一人として正々堂々正面から攻め寄せるものとする。而して帽子を奪ひ取られた者は戰鬪力を失ひて自分の陣地に戻るかくして「止め」の合圖で直ちに休止して自分の陣地に引き上げて整列し、帽子を多く奪はれなかつ方たの組を勝とする。

注意

イ、一定時間に帽子を多く取つた方を勝とするか、又豫め大將を定めて其の帽子を取つた方を勝とするか、又は全部を取つた方を勝とするか、其の時の約束によつて勝負の方を決定するがよい。

ロ、帽子を奪ふには相手の隙に乘じて巧名に手を伸ばして取るに止め、敵を引き倒し又は蹴倒す

が如き亂暴をせぬ様に堅く注意せねばならぬ。

ハ、帽子を取られぬ様に手を以て抑へぬこと。並に指の爪を短く切らせるやう。

ニ、帽子は餘り堅く被らぬこと、時に帽子の被り方を檢査する必要がある。

ホ、とつた帽子は其の場で直ちに相手方に渡すか。又は定まつた場所におくか、帽子をとられたまゝ被らせずにおくやうにしてもよい。

ヘ、倒れた者などは見逃す様に正々堂々と戰ふ様に指導したい。

ト、本遊戯は男子のみのものであるが女兒に行はせる場合は襷を掛けさせて「襷取」りとする。

一〇、繩跳

（其一）

用具

徑一糎位の長さ五米程の繩二本、旗二本、小旗二本。

準備

兒童・生徒を紅白の二組（兒童數多いときは三——四組に分ち、各組より廻し手二人を出して繩を廻はさせ更に十米位隔てゝ旗を樹てゝ置く。先頭生は小旗を持ちて出發線に立つ。

方法

合圖と共に廻し、手は繩を廻し一番生は出發して繩の中に入りて一回跳躍して走り出で先方の旗を廻り、再び繩の中を跳びて二番生に小旗を渡す。順次同じ事を繰り返へして早く終つた組を勝とする。

注意

イ、各組の整列は横隊としてもよい。

ロ、繩で跳びそこねた者は正確に出來るまで跳ばす。

ハ、繩や旗までの距離は學年に應じて斟酌する。

ニ、廻し手は時々交代させるがよい。

（其二）

用具

旗二本、長さ二米位の繩二本。

準備

全兒童・生徒を二組に分ちて出發線の後方に一列縱隊（横隊）に整列せしめ、前方約二十米位の所

に旗を樹てる。而して先頭生は繩を持つて跳ぶ用意をして立つ。

方法

「始め」の合圖で先頭生は繩の兩端を持ち、之を廻して跳びつゝ目標の旗を廻はり、歸つて來て繩を二番生に渡して列の最後に就く。二番生以下順次に同樣に繰り返へして早く終つた組を勝とする。

注意

イ、繩を渡す場所は正確にするがよい。

一一、片脚角力

用具

半徑一——一・五米の圓を描く。

準備

全兒童・生徒を紅白（東西）の二組に分ける。

方法

各組より一人宛出で、片脚を後に廻はし、之を反對側の手で持ち即ち片側で片手で角力をとる。

相手方を捕へてはならぬ。押すか。相手の手を離させるか、又は圓から押し出す、脚を持つ手を離したり、倒れたり、圓から出た場合には負となる。順次同じ事を繰り返へして勝者の多い方を勝とする。

注意

イ、片脚を持つ場合に幼兒には、同じ側の手で脚を持つ方が危險が少ない。故に適當に斟酌すべきである。

ロ、亂暴な行爲は一切嚴禁する。

ハ、三人抜き又は五人抜ををすることも面白い。

ニ、二人抜いたものは優退とすることもよい。

一二、メジシンボール (Medicine Ball)

用具

ボール (Ball) 重さ三ポンド (Pond) 四個。(二——三)

準備

全兒童・生徒を四組に分ちて (兒童數に應じて二——三組) 縱隊の隊形に配列する。兒童の位置す

べき場所は明瞭に線を引くがよい。

方法

「用意」の合圖で先頭生はボールを持ち、後方生はこれを受ける用意をする。「始め」の合圖で各組の先頭生は頭上から次の者にボールを渡す。ボールが最後の演技者に渡つたなら最後の者は直ぐにボールを持ち、疾走して先頭生の位置に進みて足を開き、此の間からボールを後方に送る。ボール一回後方に送り、後方の者が先頭となる毎に各兒童・生徒は一段づゝ後に下るものとする。斯くして交互に頭上及び股間から送りて最初の位置に早く復した組を勝とする。

注意

イ、最後に即ち先頭生が再び先頭になりて全兒童が演技し終つたときは、ボールを各組の前に置かしめるがよい。

ロ、頭上でボールを送る時には各兒童・生徒誰も手を觸れなければならぬ。即ち授げて通過させては反則となる。股を轉がすときには觸れる必要がない。

ハ、ボールの送り方には次の如き種類がある。

A、跨のみの通過。

B、頭上のみの通過。

C、側方通過。

D、此の三種の幾つかの結合。

ニ、ボールが線外に出た時は次の演技者は之を拾ひて自己の位置に歸つた後に送る。

ホ、一回にて決勝とせず二回反復させてもよい。

一三、蛙跳

準備

全兒童・生徒を二組（三——四）に分ち、兒童・生徒と兒童・生徒の間隔を二——二・五米位として縱隊となし上體を前屈させて立たせる。

方法

「始め」の合圖で最初の兒童・生徒は順次味方の兒童・生徒の背に手をつきて跳越し、最後の兒童・生徒を跳び越えたなら、その次に定められたる距離を取りて上體を屈げて立つ。自分の後の兒童生徒が跳び越えたなら、直ちに之に續いて跳ぶ。そして全兒童・生徒が早く跳び終つた組を勝とするのである。

注意

イ、上體前屈の姿勢は跳ぶ方向に向ふ法。後向となる法、側向となる法等がある。

ロ、前屈の場合に頭をなるべく内に入れるやう。

ハ、可成兩脚踏切の指導をするがよい。

ニ、一組の人數をあまり多くせぬがよい。

第二項　唱歌遊戯

一、目的

自然の活動に適應し、唱歌に伴ふ表現的動作に依つて、全身的及び部分的運動を行ひ、身體の發育と健康とを助長し、溫雅優美輕妙なる動作を養ひ、快活なる感情を養ふものである。

二、指導上の着眼點

（一）表現動作は唱歌から來た感じを、自然に而かも素直に現すやう。

（二）個性を尊重し、注入的な劃一的訓練をなさぬやう。

（三）兒童の活動性を滿足せしむるとことに努め技巧をこらし形式的統一をなさざるやう。

（四）子供らしい表現、男兒らしい動作、女子らしい表情といふことに常に注意を怠らず、不自然

な點は努めて避けるやう。

（五）歌詞の內容はつとめて、種々の方法に依つて味はせ、歌詞、歌曲から生ずる、自然的活動は努めて尊重するやう。

（六）表現的動作は出來得る限り大きくなさしめ運動價値を大ならしむるやう。

（七）模倣的指導にのみに依らず創作的な指導も行ふやう。

（八）同一なる表現動作の價値を認むると共に異なる表現動作の指導價値も認むるやうせねばならぬ。

三、唱歌遊戯の材料

前に述べた唱歌遊遊の教育的價値と、材料選擇に對する要旨は指示したのであるが、我國の現狀より見て各種の材料が創作されて實際家を迷すやうな狀態にあるから、よくその目的觀を確立し材料に對する眞正な選擇をすることが重要である。尙ほ學校の環境や生徒の發達狀態をも考慮され身體及精神の健全なる發達を遂げしめねばならぬ。

唱歌遊戯は決して、表現動作の指導や、リズムの指導のみを目的とするものではない、主となる點はよく遊ぶといふこと、唱歌を味ふと、いふことよく活動するといふこと、が重要なことで、常に身

體的活動と各人の個性をどこまでも尊重するといふことに着目して材料の吟味をせねばならぬ。

一、日の丸の旗

歌詞

イ、白地に赤く日の丸染めてあゝうつくしや日本の旗は。

ロ、朝日ののぼる勢見せてあゝ勇しや日本の旗は。

準備

運動場の中央に國旗を掲げておき、而して全兒童を一列圓陣に並べて各々手を連ねさせる。

動作

イ、白地に赤く　旗を視ながら七歩圓周上を右に進み最後に圓心に向ふ。

日の丸染めて　上體を稍後に反らし、兩手を側より上に擧げて日の丸の形を作る。

あゝ美しや　臂を優美に側から下ろす。

日本の旗は　拍手を七つする。

ロ、朝日の昇る　蹲踞して兩手の掌を下にして前から上に擧げながら、だん〳〵たち最後に大きく伸びる。

勢見せて　　胸を張りて臂を伸したるまゝ側方から下ろす。
あゝ勇しや　　右に向きて圓周上を勇ましく歩く。
日本の旗は　　圓心に向つて元氣よく拍手しながら足踏をする。

注意

イ、國旗を高く揭げて常にこれを仰ぎつゝ行ふやう。
ロ、幼心にも我が國體國旗の尊嚴を知らしめ、國旗に對する敬虔の念を養ふこと。
ハ、快活に勇ましく動作させる樣。

二、鳩

歌詞

イ、ぽつぽつぽ、鳩ぽつぽ。豆がほしいか、そらやるぞ。
　　みんなでなかよく食べに來い。
ロ、ぽつぽつぽ、鳩ぽつぽ。豆がうまいか、食べたなら。
　　一度にそろつて飛んで行け。

準備

全兒童を一列圓形にならばせて各々連手させる。

動作

イ、ぽつぽつぽ　體を少し前に傾け、俯目になつて圓周上を右に歩く。

鳩ぽつぽ　體を反し、斜上を仰ぎ見ながら歩き續ける。

豆がほしいか　左手に豆を持つてゐるつ左もりで、前膊をまげ、右手で其豆を掴んで

そらやるぞ　なげやる動作をする。四度しながら、其場で右に一廻轉する。

みんなでなかよく　連手圓心に向つて四歩進み最後に連手を少しく持ちあげる。

食べに來い。　手を離して體を前に傾け、右手にて鳩を招ぎつゝ四歩後退して最後に踞む。

ロ、ぽつぽつぽ　踞んだまゝ右斜下に頭を傾けて三回拍手する。

鳩ぽつぽ　頭をまはして左を見ながら前同樣三回拍手する。

豆はうまいか　頭を右から始めて左右交互に四回うなづく樣にまげる。食べたなら各

食べたなら。　動作毎に斜前方地上にゐる鳩を見る。

一度に揃つて　立つて連手のまゝ圓周上を右に歩む。

とんで行け。　　連手のまゝスキップにて行進をする。

注意

イ、二番の「とんで行け」のところは各自任意の方向へ行かせるのもよい。

三、桃太郎

歌詞

イ、桃太郎さん桃太郎さん
　お腰につけた黍團子
　一つ私に下さいな。

ロ、やりませうやりませう。
　これから鬼の征伐に
　ついて行くならやりませう。

ハ、行きませう行きませう
　あなたについて何處までも
　家來になつて行きませう。

ニ、そりや進めそりや進め
　一度に攻めて攻め破り
　つぶしてしまへ鬼が島。

ホ、面白い面白い
　殘らず鬼を攻めふせて
　分捕物をえんやらや

ヘ、萬々歲萬々歲
　お伴の犬や猿雉子は
　勇んで車をえんやらや。

準備

一列圓陣心に向つて立たせる。一、二の番號を附けさせ相手をきめておく。

動作

イ、桃太郎さん　右手を肩の高さに前に伸ばし、招く樣を四回して下す。

桃太郎さん　拍手を三回する。

お腰につけた　右手で今招いた桃太郎の腰のあたりを指す。

黍團子　指した右手を下ろす。

一つ　左手の掌を上にして前にさし出す。

わたしに　前に出した左手の上に右手をかさねる。

下さいな。　兩手を重ねたまゝ胸につけて體を少し前に傾ける。

ロ、やりませう〳〵　手を腰にして二回頷く。

これから鬼の　左手は腰のまゝ右手で遠方を指さす。

征伐に　兩手を下す。

ついて行くなら　足踏を四歩する。

やりませう。

ハ、行きませう〳〵
あなたについて
どこまでも
家來になつて
行きませう。

ニ、そりや進め〳〵
一度にせめて
攻めやぶり
つぶしてしまへ

鬼が島

ホ、おもしろい〳〵
のこらず鬼を

左手で左腰の所にもつた黍團子を右手で取つて與へる動作をする。
圓周上を元氣よく右に進む。
一番(桃太郎)は手を腰にして左方で二回頷き、二番(家來)は一番の左後の方で輕く二回おじぎをする。
一番の左手二番の右手とをつないで圓周上を右に進む。

右手を左腰の身邊から右前方に振り擧げて指揮する身振りを二回する
連手して圓心に向つて進む。
連手のまゝ元氣よく臂を上にあげる。
連手をといて左足を後に引き左右の手を交叉して物を潰す樣に勢よく打ち下ろして踞む。
立つて手をもとにとる。
拍手しながら後退する。
兩臂を後側方から出來るだけ大きく前に廻して左右を交叉する。

攻めふせて　　その兩手で下方に壓へる動作をする。
分捕物を　　拳を握り肘を強く後方に引く。
えんやらや。　　肘を前後に強く振る。

ヘ、萬々歳　　拍手二回して後兩手を上にあげて萬歳の姿をなす。
萬々歳　　前と同じ動作をする。
お伴の犬や猿雉子は　　右向をして圓周上を進む。
勇んで車を　　圓周上を輕く駈歩する。
えんやらや　　特に大きく肘を振り元氣よく高い駈歩を三歩する。

四、案山子

歌詞

イ、山田の中の一本足の案山子
天氣のよいのに蓑笠つけて
朝から晩までたゞ立通し
歩けないのか山田の案山子

ロ、山田の中の一本足の案山子
弓矢で威して力んで居れど
山では烏がかあかあと笑ふ
耳が無いのか山田の案山子

準備

全兒童を一列圓陣兩手間隔に並ばせる。

動作

イ、山田の　右手で右斜上方を指して遙かに山田を指す樣子をする。

中の　手を下ろす。

一本足の案山子　兩手を側に擧げ、左膝を屈げて横に開き、左足尖を右膝の後につけて右足で立ち一本足の案山子を作り、「し」で直立に復する。

天氣の　右手を額にかざして空を見る樣子をする。

よいのに　左手にて前と同じ動作をする。

蓑　兩臂を屈げて指尖を輕く肩につける。

笠　兩指尖を輕く接して頭上にのせ笠を冠つた形をなす。

つけて　兩手を側から下ろす。

朝から晩まで　拍手足踏しながら右の方へ其の場で一回轉する。
たゞ立ち通し　右膝を屈げ前に擧げて踏みつける。
歩け　左脚で同じ動作をする。
ないのか　最初の「一本足の案山子」と同じ動作をする。
山田の案山子。　イ、「山田の中の」と同じ動作をする。
ロ、山田の中の　右手を斜前上方左手を斜後下方にあげる外、足の動作は(イ)に同じ。
一本足の案山子　左手を圓心に向けて弓を構へる形にあげ、次で右手を矢をつがへるやうにあげる。
弓矢で　右足を圓の外方に踏み開き體を右の方に廻して眼は手の方へ注ぐ。
威して　前の姿勢で右肘を側方に張り、弓を引きしぼつた樣をする。
力んで　右足を元にかへし手を下ろして直立となる。
居れど　兩手を顏の高さまであげ、兩指尖を接して山の形を作る。
山では　兩手を輕く側に伸ばす。
烏が

かあかと笑ふ　　兩手で羽叩きする樣をしながら其の場で回轉する。

耳がなのいか　　右手で右耳を被ひて頭を稍前に傾け、次で左手を更に左耳にとりて前と同じ樣子をなし、終りには兩耳が覆はれてゐる。

山田の案山子。　　ロ「一本足の案山子」と同じ動作をする。

注意

イ、案山子の歌詞及び動作によりて秋の田圃の狀景を味はせるやう。

ロ、農夫の一年間の苦心努力の結果、黃金の波を打つまでになりし其の勞苦にまで想ひを及ぼすやう。

五、春が來た

歌詞

イ、春が來た春が來た何處に來た
山に來た里に來た野にも來た

ロ、花が咲く花が咲く何處に咲く
山に咲く里に咲く野にも咲く。

ハ、鳥が鳴く鳥が鳴く何處で鳴く
山で鳴く里で鳴く野でも鳴く。